

第7図 調査地基本層序

## 2 基本層序(第7図)

本丘陵は安山岩質または流紋岩質の岩盤を基盤としている。その上部にはこの基盤岩を起源とする風化土とその二次堆積土が堆積する。この地山堆積の上に古墳が築かれ、古墳築造後の流土、表土が丘陵全体を覆っていた。古墳墳丘からの流土はそれぞれの古墳ごとに異なった土層と堆積を見せるが、古墳のない部分では流土の土質は共通している。また、地山を形成する土層も調査地内を通して整合的に層序を確認できたので、以下に模式的な基本層序を示しておく。

I層：表土 層厚5cm前後で調査地全体を覆う。表土下面で集石1～5、埋設土器を検出した。

II層：流土 古墳の存在しない部分では褐色を呈し、粘性・しまりは基本的には弱い。丘陵上ではおおむね数cm～10cm前後で堆積する。古墳墳丘斜面や周溝内に堆積した流土は土層の特徴の差が大きい。なお、北側斜面のテラス部では20cm以上の厚さで堆積していた。この層の下面が大半の遺構の検出面で、20～25号・27～30号墳、土坑1～8・10～12を検出した。

III層：旧表土 古墳盛土下に存在する。旧表土の見られた古墳は21～23号・25号・27号墳である。色調は暗褐色・黒褐色・オリーブ黒色などで、しまり・粘性の弱いものが多い。

IV層：地山 調査地の東端部付近と西部、および丘陵南斜面に堆積する。黄色・黄褐色・橙色を呈し、しまり・粘性は弱い。土壌化したV層やその二次堆積土が主体となって形成されたと思われるが、火山碎屑物が母材の一部になっている可能性もある。丘陵南側の谷部に特に厚く堆積している。

V層：地山 丘陵全体に堆積する。色調は赤褐色～赤色で、しまり・粘性が強い。土層中に安山岩または流紋岩小礫を含む場合がある。この層の下面に岩盤が存在するが、調査で実際に確認できたのは23号墳・27号墳間の周溝底面と28号墳石室掘り方内の一部に限られている。前者は灰色で硬質の安山岩または流紋岩が、後者は赤色をベースに部分的に黄色・青灰色・白色の混じる軟質の安山岩または流紋岩が岩盤となっていた。V層中の小礫は後者の岩盤を起源とする風化安山岩または流紋岩で、V層の土壌自体も後者の岩盤の風化が進んで形成されたものと考えられる。

## 3 旧地形と古墳の墳丘(第7図)

古墳墳丘と旧表土や地山の堆積状況から、古墳築造と旧地形の関係が確認できる。丘陵の東西断面(A-A')に見られる旧表土から旧地形を復元すると、先述のように24・25号墳の立地する東側で傾斜がきつい一方で、27号墳以西では東西の傾斜がほとんどなかったことが分かる。また、南北断面(B-B'、C-C')の旧表土の堆積からは、27号墳以西の丘陵鞍部に平坦面があったことが確認でき、22号墳や27号墳がこの狭い平坦面いっぱい墳丘を築いていることが分かる。

このように、古墳が築かれた旧地形は丘陵鞍部でも東と西で異なっており、そこに立地する古墳の築造方法にも違いが見られる。24・25号墳は高所側に周溝を掘削して小規模な盛土を施しており、斜面を生かした最小限の地形改変で墳丘を築く。これに対し、平坦面に立地する22・23・27号墳は大規模な盛土を施して墳丘を築いており、24・25号墳よりも地形の改変が著しい。これら以上に旧地形を大きく改変して築かれているのが21号墳と28号墳である。21号墳は鞍部平坦面の先端付近から斜面にかけて立地する。この古墳は平坦面のみならず斜面部にも大量の盛土を施しており、調査した古墳のなかでは最大規模の墳丘を築いている。28号墳は内部主体に横穴式石室をもち、その構築にともなって大幅な地形改変を行っている(B-B')。この古墳は石室掘り方を掘削すると同時に、掘り方以外でも全面的に地山の整形を行い、大量の盛土を用いて墳丘を築いている。

### 第3節 調査成果

#### 1 古墳

#### 20号墳(第8・9図、表2、PL.6・7・68)

##### 位置と現況

調査地西端L5・6、K5・6グリッド、標高23mの幅狭な尾根部先端に立地する。今年度の調査では、本墳の約1/3程度が調査対象範囲で、その他は調査地外に続く。墳丘北側には、近年の掘削と思われる幅1.5m程の犬走り状のテラスが東西に延びている。墳丘のすぐ東側は比高差約3.5mの急斜面となっており、この斜面は人為的な掘削により形成された可能性がある。

##### 調査過程

東側斜面からの堆積と古墳との関係を把握するために、斜面と古墳との間にトレンチを掘削し、土層の堆積状況を確認した。その結果、本古墳の築造は斜面流土堆積後に築かれていることと、本古墳には盛土が施されていることが判明した。表土除去前に、墳丘主軸と思われる位置に南北ベルトを設定した。その後、表土・流土を除去し、墳丘・周溝を検出した。調査地内では主体部は検出できなかったため、墳丘の断ち割り、盛土の除去を行った。

##### 墳丘

墳丘は、東側に堀切状の周溝をもつ円墳で、墳丘規模は東西10m、高さ約1m、墳頂部の標高は23mを測る。本調査区では主体部を検出することが出来なかったため、調査地外に位置するものと思われる。

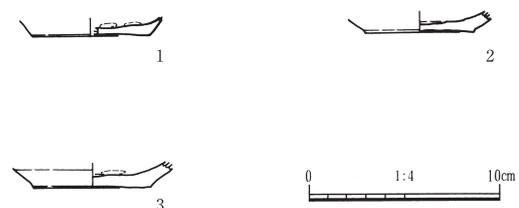
墳丘は、地山掘削および盛土によって構築される。構築過程は、周溝・墳丘裾部の地山および二次堆積土を掘削し、排出された土を盛土する。盛土(11～21層)は、墳丘中央付近で50cmを測る。各層とも10cm程度の厚さの小さな単位で施されており、大別して二次堆積土(22～24層)および地山V層由来の2種類の土を用いる。盛土の下には、旧表土は確認できなかったため、橙色土(25層:地山V層)を古墳築造直前の地表面とした。

土層断面からは、盛土は3回程度の工程に分けることができるとと思われる。しかし、調査面積が古墳の約1/3であるため、どの方向から盛土を施したかは不明である。墳丘東側は盛り土が薄く、西側に盛土が厚く施される状況が窺えることから、盛土は西側を重点的に施したと考えられる。

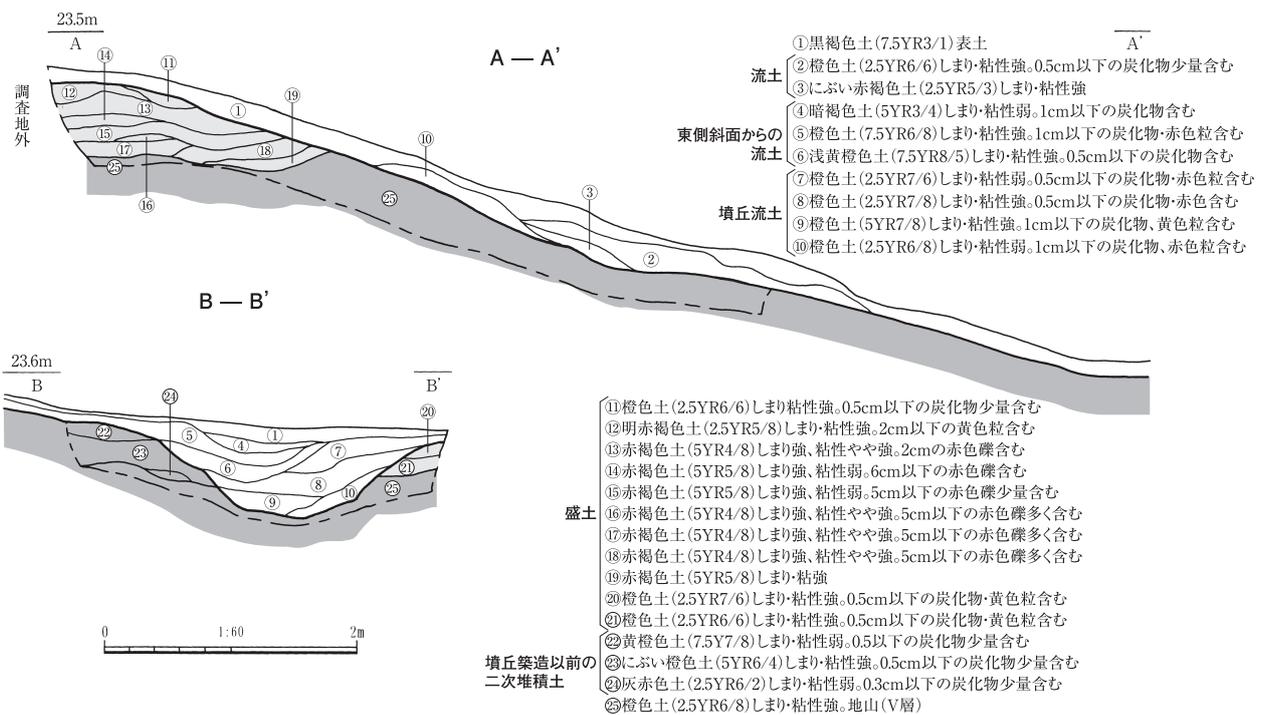
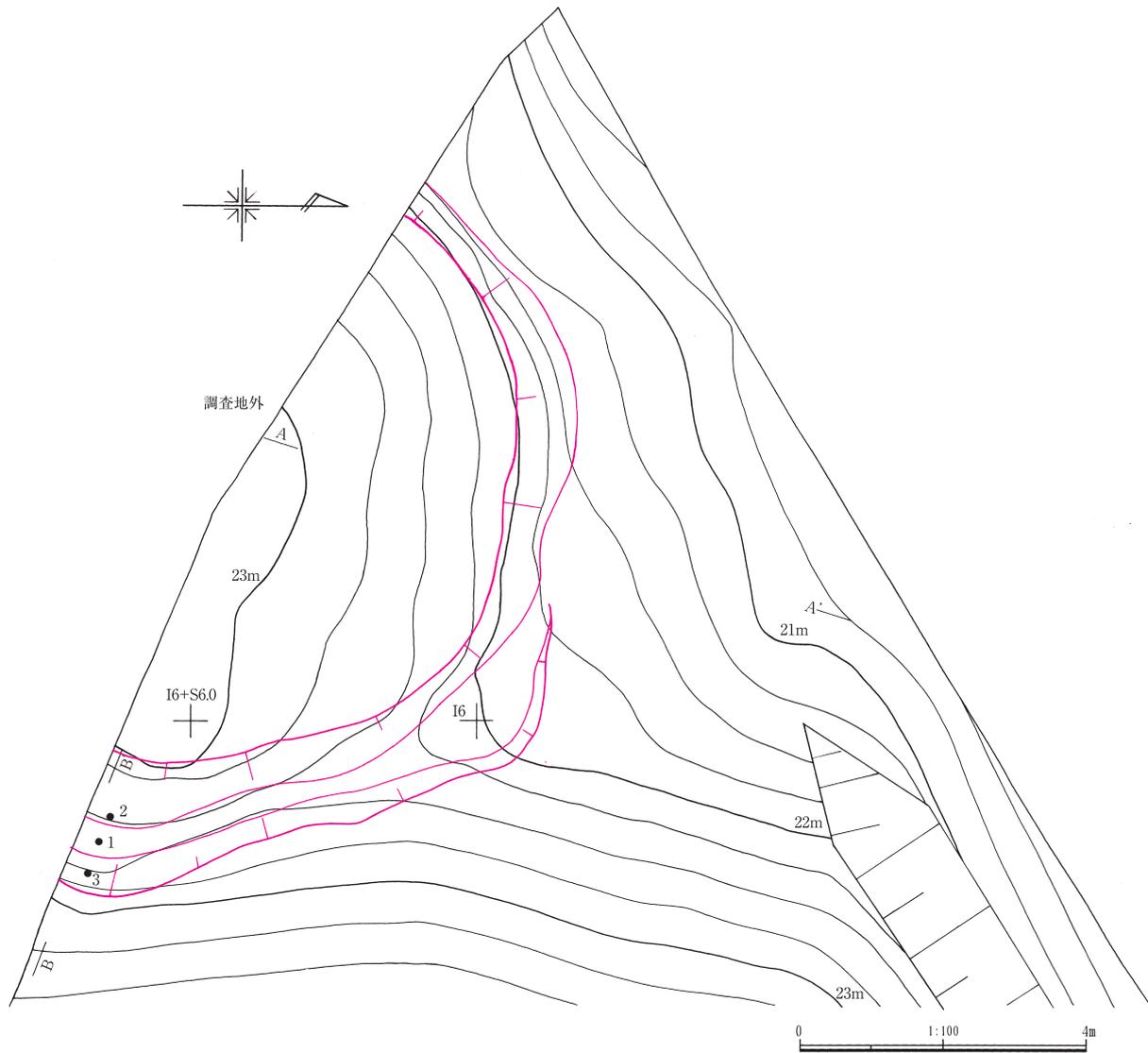
##### 遺物出土状況

遺物は、墳丘東側の溝に堆積した埋土中から土師器皿片が出土した。そのうち3点を図示したが、本墳に伴わない可能性が高い。図示していないが、墳丘流土中および盛土中から須恵器体部片が数点出土している。

本古墳の築造時期は、調査で得られた情報が少ないため確定し得ないが、盛土中の須恵器片の存在から見て、古墳時代後期以降に築造されたと考えられる。



第8図 20号墳出土遺物



第9図 20号墳墳丘平面図・土層断面図

## 21号墳（第10～28図、表2・3・7～10・12、巻頭図版3～5、PL.2・8～20・68～76・84・85・94）

### 位置と現況

調査地南西の丘陵上H6・7、I6・7グリッドを中心に、南西方向に緩やかに傾斜する標高26mに立地する。墳丘南裾部は調査地外となっている。調査前の地表面観察では、丘陵上方から稜線上に古墳の高まりが連続するなか、本古墳は28号墳同様南斜面に若干張り出すように位置する。29号墳との間隙の窪みによって周溝の存在が予想され、西側平坦面からの比高差が約3mあることから、容易に古墳と認識できた。墳頂部には須恵器が散見された。

### 調査経過

墳丘上の主軸となる東西土層断面ベルトと、これに直交する南北ベルトを設定した後、掘り下げを開始した。厚さ10～20cmの表土・流土を除去した段階で墳丘面を検出した。墳丘平坦面で、当初主体部と認識した土坑10・11を検出して、記録作成を行った。その後、断ち割りによって土層断面を確認しながら、西側から南側の墳丘盛土21層を除去したところ、墳頂部やや南寄りから第1主体部を検出した。同時に墳頂部東寄りの盛土(22層)下面で第2主体部を検出した。第1・2主体部をほぼ同時進行で調査を実施し、調査終了後に盛土43層を掘削した段階で、墳頂部西寄り第4・5主体部を確認した。各主体部の土壌は全て採取して、水洗・乾燥後に篩にかけている。このうち、第3主体部の土壌中からガラス小玉などの玉類が回収された。第4・5主体部調査終了後、墳丘西から南斜面に堆積する全ての盛土を除去して調査を終了した。盛土除去後に、西側の墳丘斜面において竪穴住居跡1・段状遺構3・土坑9を検出している。墳丘土層断面の観察により、埋葬から墳丘築造に至る過程が大きく2段階に分かれることが判明し、埋葬ごとに盛土が行われていることが確認された。周溝も盛土拡張に合わせて再掘削が行われていることが土層断面で認められる。このような状況から、本古墳を古段階と新段階に分けて報告する。

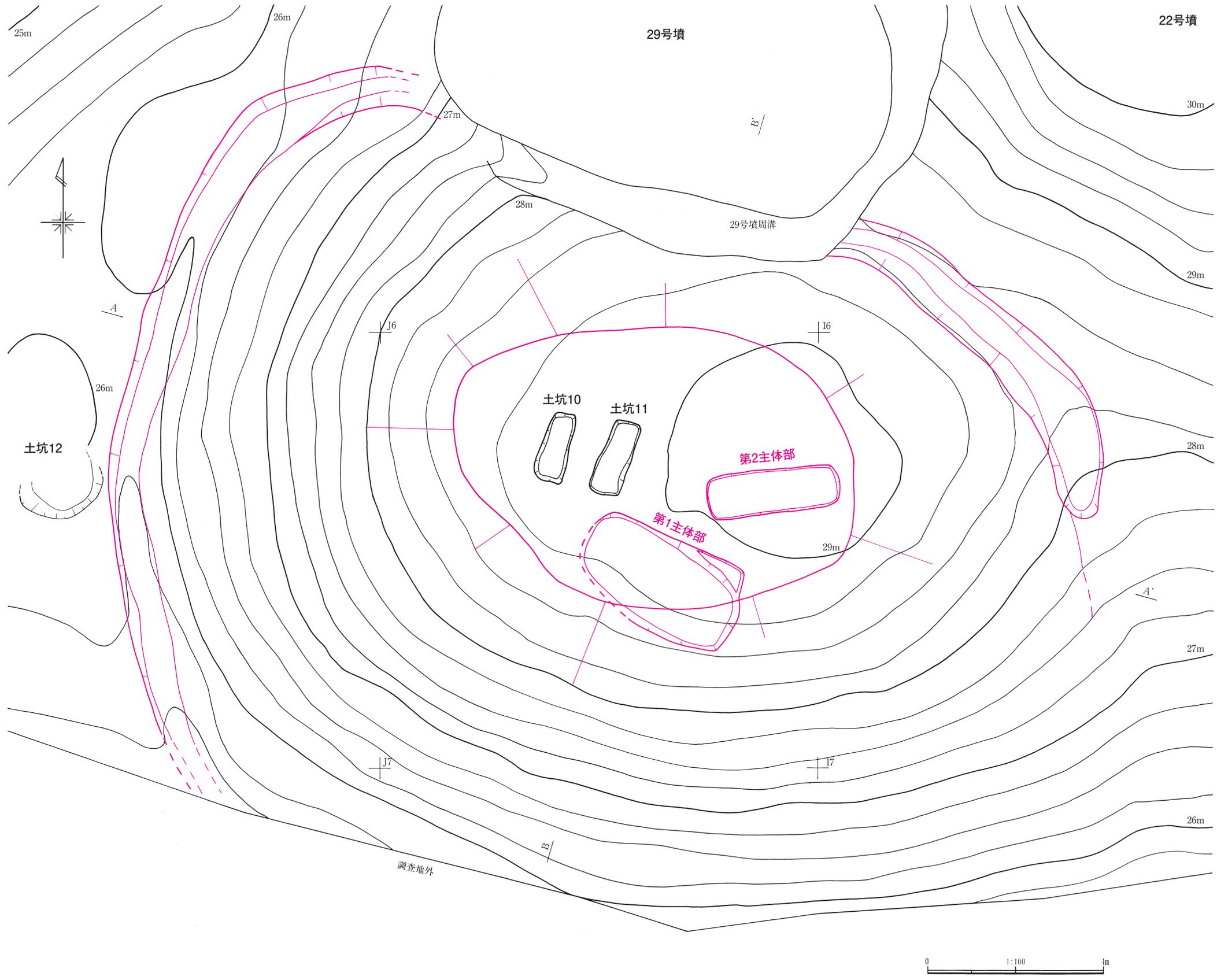
## 21号墳新段階(第10～16図、表2・12、巻頭図版3、PL.8～15)

### 墳丘

厚さ10～20cmの表土・流土を除去した段階で新段階の墳丘を検出した。墳丘は、北側と西側に周溝をもつ歪んだ楕円形もしくは隅丸方形を呈している。墳丘の規模は周溝内側で東西約21m、南北約17m、周溝外側で東西約22m、南北約18mである。墳頂部の標高は最高点で29.24m、東側墳端からの比高差は約1.5m、西側周溝底からの比高差は約3.3mを測る。

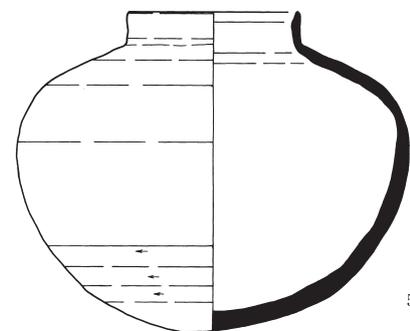
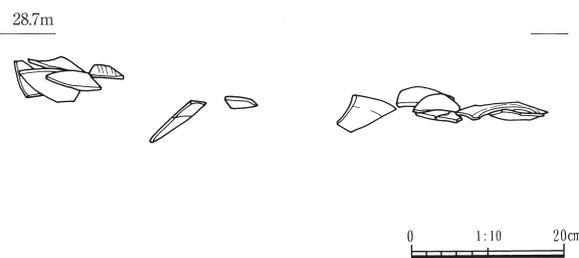
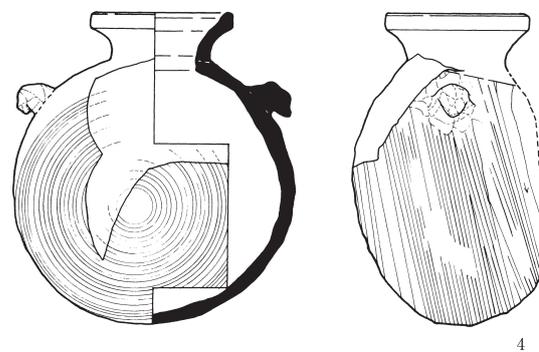
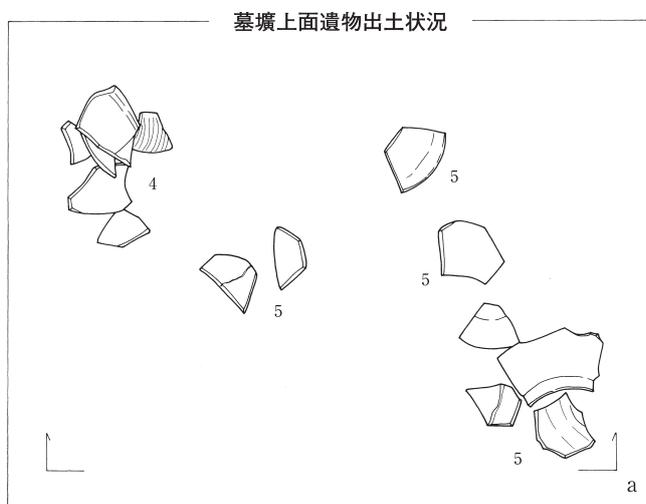
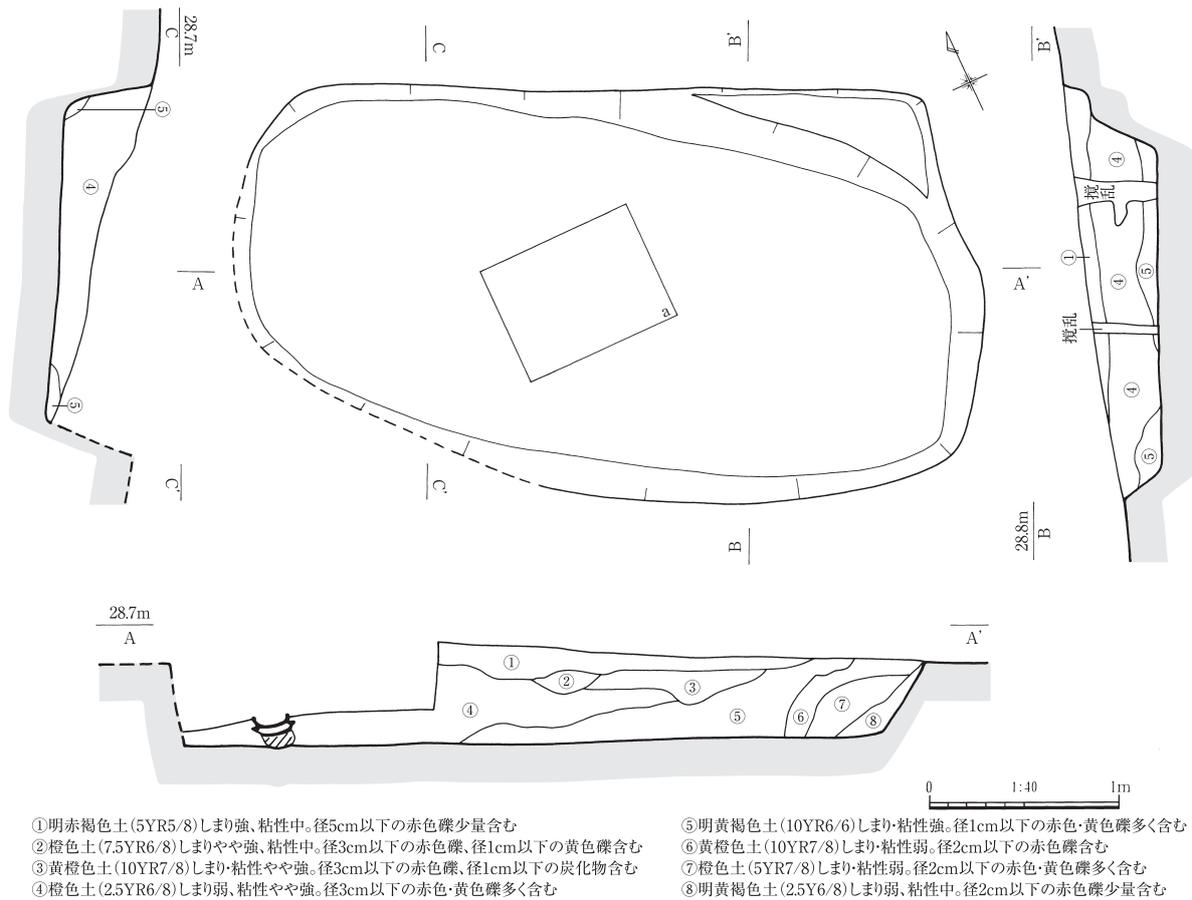
墳丘は周溝掘削と盛土によって築かれる。土層断面の観察からは、古段階の墳丘上に盛土(16～37層)を構築していることが読み取れる。盛土層は墳丘中央付近で最大約30cm、墳丘西側では約50cmを測り、墳丘裾ほど細かい単位が確認できる。盛土を構成する層厚は約10～20cmで黄褐色土(地山Ⅳ層由来)と赤褐色土(地山Ⅴ層由来)を互層状に積み上げ、とくに墳丘西側では幅3mにわたって旧地形に沿って厚く施されている。墳丘東半は旧表土Ⅲ層と地山Ⅳ層上に薄く盛土を施しているのみで、古段階の墳丘面をそのまま活かしている。

周溝は、墳丘北側の尾根を大きく断ち切るようにコの字状に掘られており、東側で自然地形に沿って収束している。北側で最大幅1.4m、深さ0.6mを測る。この周溝の北側は29号墳周溝に切られており、北側と西側では21号墳古段階に掘削された周溝埋土を再掘削して構築されている。

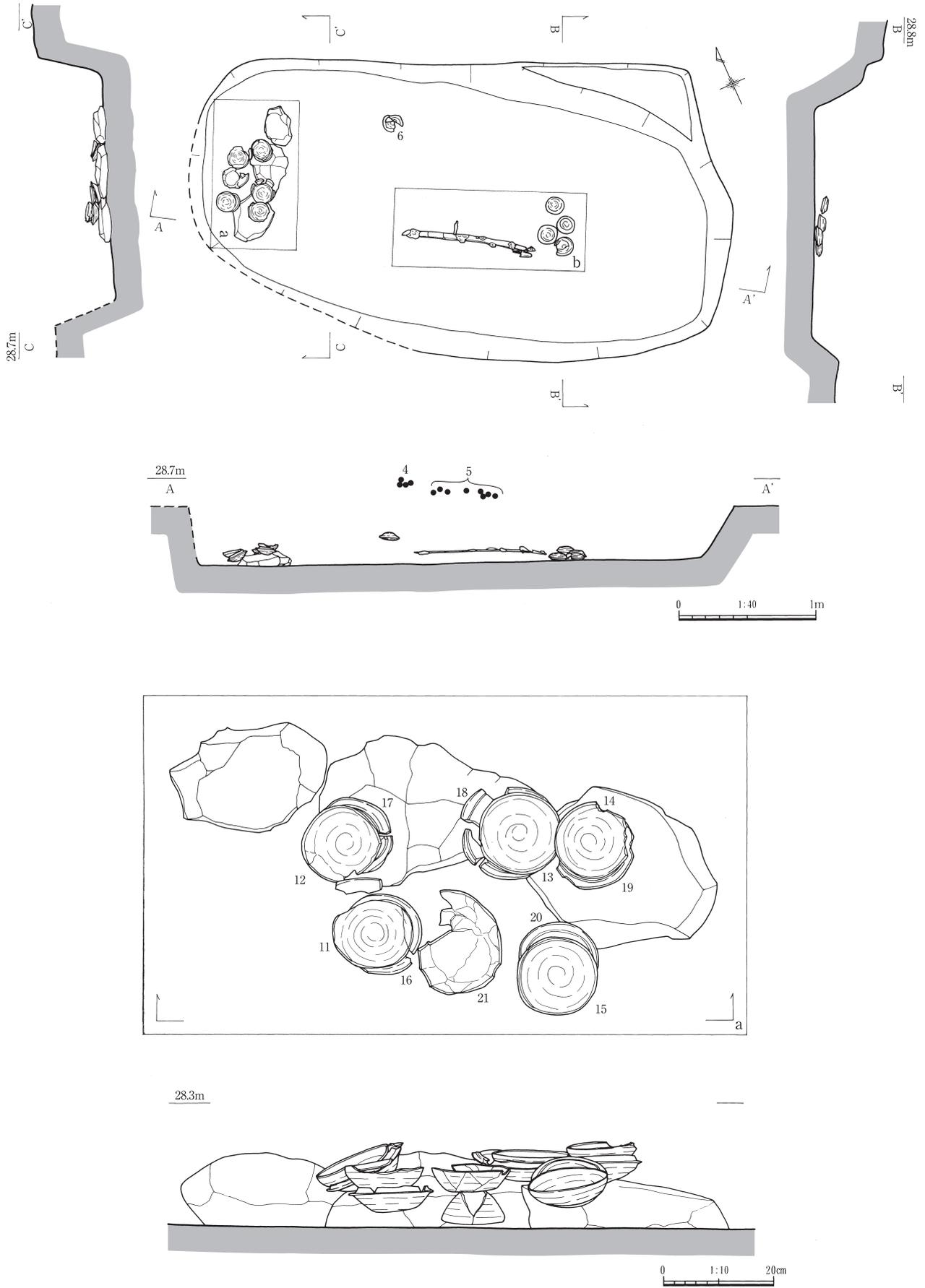


第10图 21号墳新段階墳丘平面图

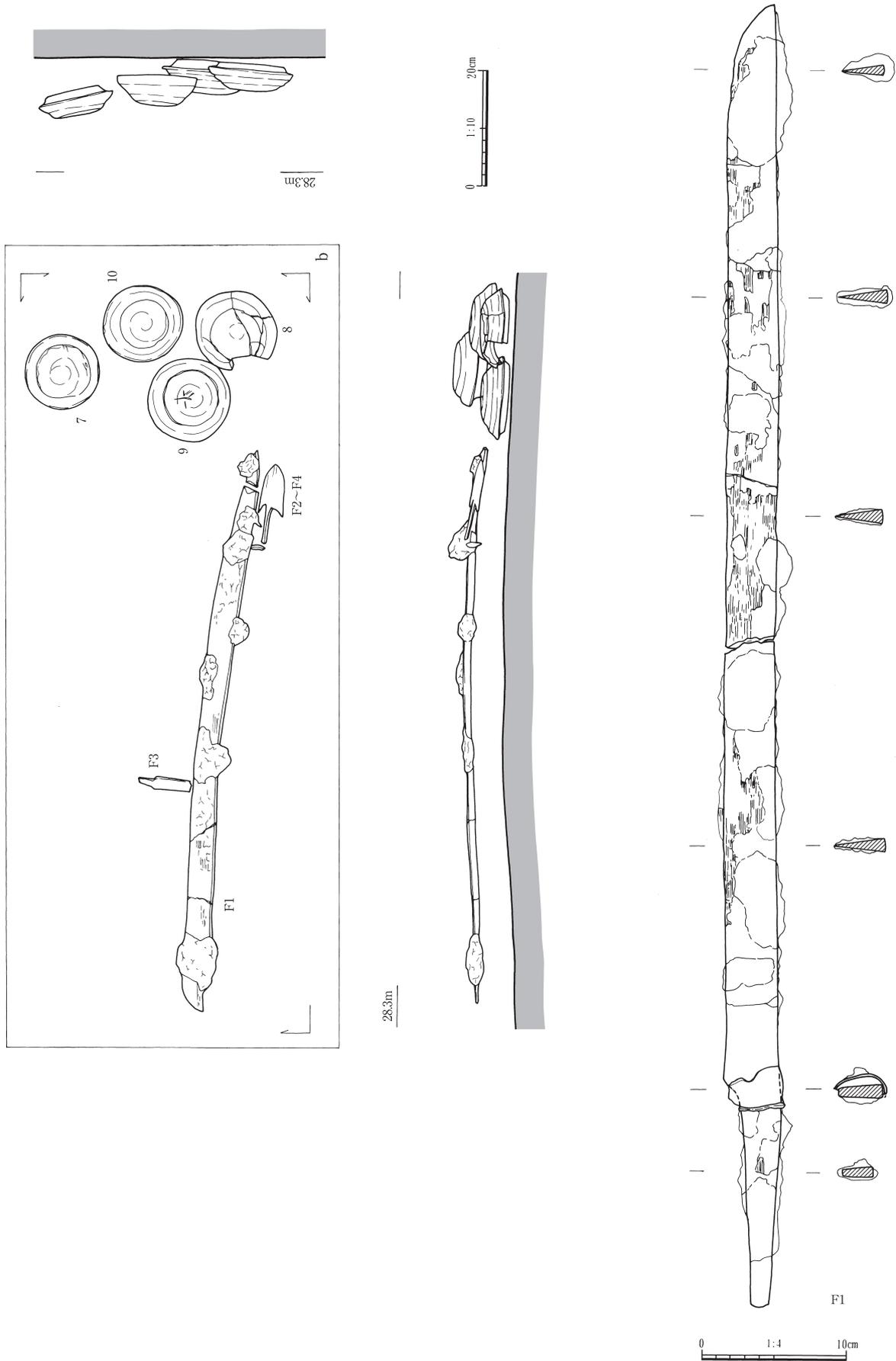




第12図 21号墳第1主体部平面図・土層断面図および墓墳上面出土遺物



第13図 21号墳第1主体部遺物出土状況図(1)



第14図 21号墳第1主体部遺物出土状況図(2)および出土遺物(1)